



浜之郷小学校

郷小だより

12月号②

Dear Gosyo kids !

2021. 12. 9

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

『40年前の“あたりまえ”と、今の“あたりまえ”』

校長 高橋 励

学校でつかっているタブレット端末。昭和生まれの校長先生は「オトナがつかうもの」と数年前まで思っていたのですが、今では、つかうだけならオトナよりラクラクとつかいこなす子どもがたくさんいます。

校長先生が小学生だったころ、ウルトラマンシリーズのヒーロー番組をよく見ていました。うで時計のような道具でおたがいに通信する場面を見て「こんなことができたらカッコいいのになあ」と思っていたのですが、今では、手のひらにのるスマートフォンを使って、地球のうら側で暮らす人とでも、顔を見ながら話ができるようになりました。

今は、インターネットを通じて人とつながったり、相談したり、いろいろなことを調べたり、バーチャルな空間で「ここ」にはいない人といっしょにゲームを楽しんだりできます。買い物をしたり、予約をとったり、流行の音楽やドラマや映画を楽しむこともできます。どれも、校長先生が小学生のころには「ゆめ」の中の話でしかありませんでした。そういえば、電話やテレビのチャネ

ルは「まわすもの」でした。それが「あたりまえ」でした。コンパクトディスク（CD）をはじめて買ったのは校長先生が高校を卒業したころ。それが今ではネット配信の時代です。

小学生のあなたたちがオトナになっていくなかで、今の「あたりまえ」はどれだけ変わっていくのでしょうか。便利なものやしくみを上手に・安全に使うために必要なことは、時代とともに変わります。

今、インターネットを上手に・安全に使うために必要なことの一つに、インターネット上で「あなたであること」を証明する「なまえ（＝アカウント）」を管理することがあります。「なまえ」をかってに使われないようにするためのカギのことを「パスワード」と呼びます。今回、そのカギ（パスワード）を作り直してもらうことになりました。これからの時代を生きるあなたに必要なことだと思います。くわしくはべつにおてがみ手紙でお伝えします。おうちの人に手伝わしてもらいながら、自分のために取り組んでみてください。

ご家庭の皆さまへ。

寒さが厳しくなってきました。朝、ポケットに手を入れて登校する子どもの姿が増えてきています。保健だよりでも話題にしていたましたが、手袋など用意していただくとありがたいです。よろしく願いいたします。

さて、表面に書いたとおり、パスワードの変更の作業へのご協力をお願いすることになりました。情報化社会といわれる今の時代を生きていく上では「あたりまえ」となる「パスワード」の必要性や管理の仕方について、ご家庭でも話題にいただきながら、スキルとして身に付ける機会としていただければ、と思います。インターネットは確かに便利なものですが、その利用にかかわる事件やトラブルの事例は後を絶ちません。便利なものを安全に・よりよく使うためには、知識が必要です。作業の詳細については、別にお便りを配付いたします。

すでにお子さん個人の端末を持たせているご家庭もあるかと思いますが、その使い方や安全について、ご家族で振り返ってみてはいかがでしょうか。

『あなたは、心の中にある「ひみつ」、どうしていますか？』

だれにでも、「人にはいえないひみつ」があるもの。それは、ほかの人からみれば「どうってこともない」こともあるけれど、自分にとっては「とても人にはいえない」と思っている。そんな「ひみつ」、あなたは どうしていますか？

「ひみつ」とのつきあい方を考えるときに、思い出すお話があります。図書コーナーでさがしてみたのですが、なかなか見つからず、こまっていたところを、学校司書の安藤先生が探し出してくれました。ちょっとだけ本文をごしょうかい。

ある日、とこやは、教会へ行きました。そして「神父さま。わたしは、だれにも、いってはならない、ひみつをもっています。もし、いえば、ころされてしまうのです。けれども、わたしは、だまっているのが、つらくてなりません。どうしたら、いいでしょうか。」

と、そう申しました。

すると、神父さんは、こういいました。「谷間へ行って、穴をほりなさい。そして、穴の中へ、そのひみつを、なんども、いいなさい。きっと、胸が、かるくなるだろう。そうしたら、穴に土をかぶせておきなさい。」

そこで、とこやは、谷へ行って、穴をほると、「王子さまの耳は、ロバの耳。王子さまの耳は、ロバの耳。」

と、なんども、なんども、さげびました。そして、土をかぶせて、家に帰りました。

さて。とこやさんの「ひみつ」とはなんでしょう？なぜ、そんな「ひみつ」をかかえることになったのでしょうか？そして、このあと、とこやさんはどうなるのでしょうか？

このお話のタイトル、知っている人がいるかもしれません。たぶんおうちの人は知っていると思います。きょうみがわいたら、ぜひ、図書コーナーにいて、本を探してみてください。

なぜ、このお話をしょうかいするのかといえば、この神父さまのアドバイスが「なるほど」と思えるからです。加えて、このお話では、とても、ステキでふしぎなことが、このあとに起こるからなのです。

あなたには、このお話に出てくる「谷間にほった穴」のように、安心して「ひみつ」をいえる場所がありますか？くるしかったり、こまったりしたときに、安心してそれをことばにできる場所がありますか？

「人にはいえない」と思っていることを「ことば」にできた時、ふしぎなことが起こるとしたら、勇気をもってことばにしてみるのもいいのかなあ、と思うのですが、あなたは どう思いますか？

引用：「子どもに聞かせる世界の民話」矢崎源九郎、実業之日本社